

令和8年(2026年)10月6日
山口県病虫害防除所

野菜類のチョウ目害虫の防除の徹底について

シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ等の発生が多いため、防除対策の徹底をお願いします。

1 発生状況

- (1) 9月下旬の巡回調査(キャベツ)では、シロイチモジヨトウは発生ほ場率50.0%(平年16.3%)、寄生株率5.8%(平年0.7%)で平年に比べ多く、ハスモンヨトウは発生ほ場率83.3%(平年42.2%)、寄生株率9.2%(平年4.5%)、オオタバコガは発生ほ場率33.3%(平年8.9%)、寄生株率1.7%(平年0.4%)で、平年に比べやや多かった(図1、2、3)。
- (2) シロイチモジヨトウの防府市におけるフェロモントラップの誘殺数(9月1日～9月30日)は、2,332頭(前年1,039頭)であった(図4)。
- (3) 福岡管区地方気象台の10月1日発表の一个月予報では、気温は高く、降水量は平年並か少なく、発生が助長されると考えられる。

2 防除対策

- (1) ほ場をよく観察し、発生及び被害が認められた場合には直ちに防除を行う。卵塊や若齢幼虫が集中した葉を見つけた場合は、すみやかに捕殺するとともに薬剤防除を実施する。
- (2) 本年は、チョウ目害虫の発生に好適な条件が続いているため、定期的な薬剤防除を継続する。

3 防除上注意すべき事項

- (1) ハウスの鉄骨パイプ、防虫ネット等にも産卵することがあるので注意する。
- (2) 中齢から老齢幼虫は薬剤の効果が低下するため、若齢幼虫期の防除を徹底する。
- (3) 多くの薬剤に抵抗性が発達しているため(表1、図5)、散布後には効果を確認するとともに、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (4) 薬剤防除を行う場合は、周辺の作物に飛散させないように注意する。
- (5) 農薬を使用する際には使用基準を遵守し、適正な散布作業を実施する。

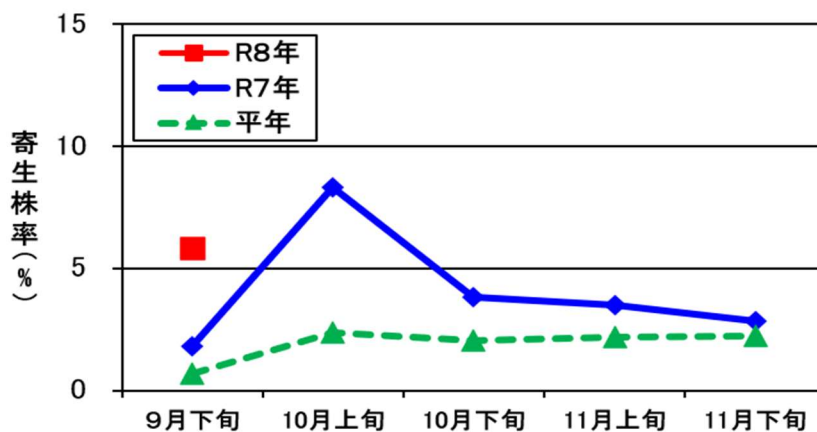


図1 キャベツのシロイチモジヨトウの発生状況

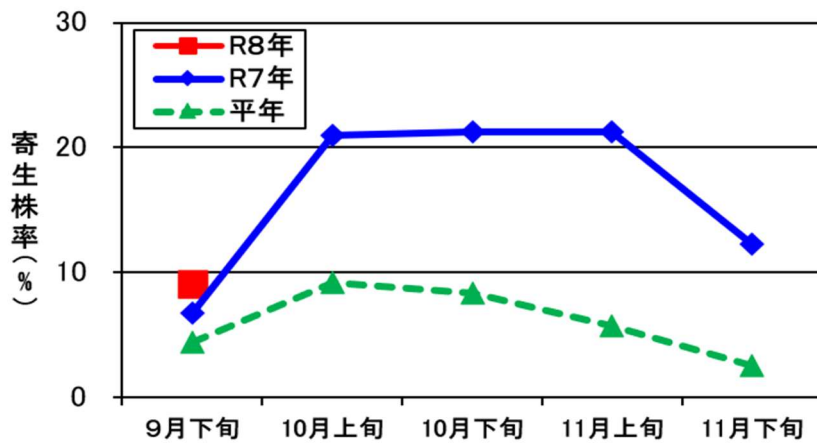


図2 キャベツのハスモンヨトウの発生状況

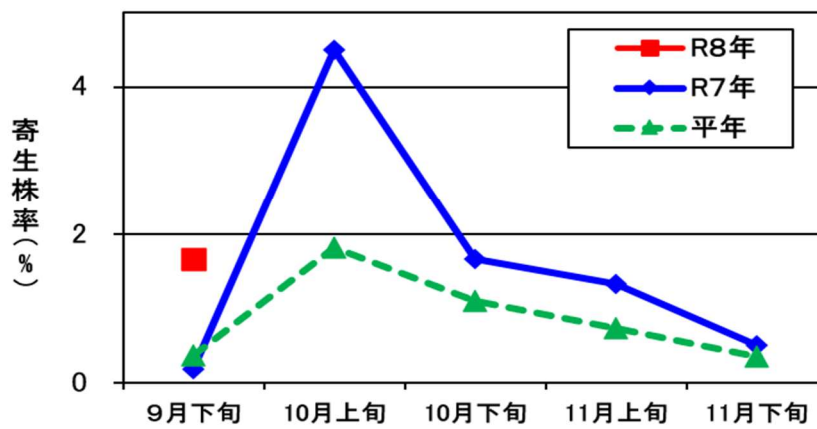


図3 キャベツのオオタバコガの発生推移

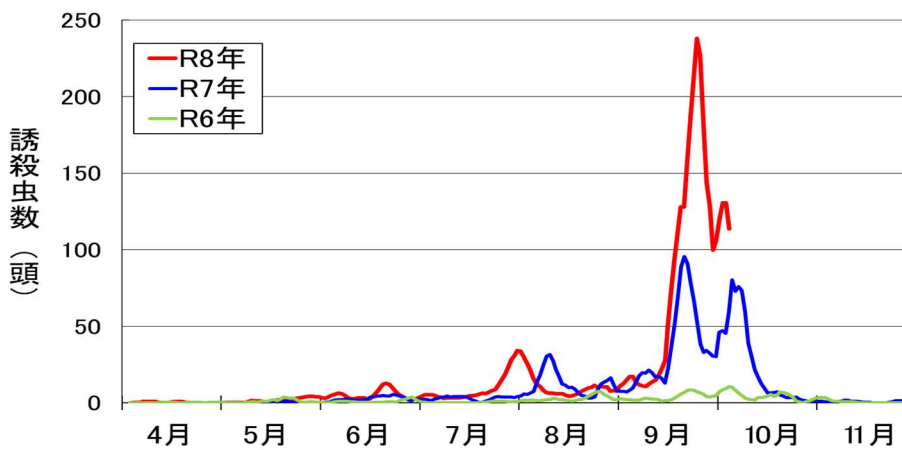


図4 シロイチモジヨトウの誘殺数（フェロモントラップ：防府市）

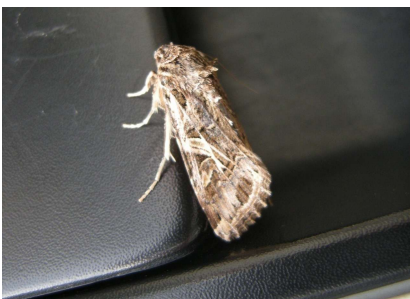


写真1 ハスモンヨトウ成虫



写真2 ハスモンヨトウ幼虫



写真3 ハスモンヨトウ卵塊



写真4 シロイチモジヨトウ成虫

写真5 シロイチモジヨトウ幼虫

表1 シロイチモジヨトウの薬剤別死虫率(%)

IRACコード	供試薬剤	希釈倍数 (倍)	検定実施年(供試個体群)		
			R5(下関市キャベツ)	R6(山口市キャベツ)	R7(山口市キャベツ)
5	ディアナSC	2500	—	—	100
6	アニキ乳剤	1000	100	—	—
	アフーム乳剤	2000	3.3	85.0	5.0
11A	ゼンターリ顆粒水和剤	1000	89.7	—	—
13	コテツフロアブル	2000	—	60.0	95.0
15	ノーモルト乳剤	2000	3.4	—	0
	カウンター乳剤	2000	13.8	—	—
22A	トルネードエースDF	2000	—	—	100
22B	アクセルフロアブル	1000	17.2	—	90.0
28	フェニックスフロアブル	2000	0	—	—
	プレバソンフロアブル	2000	17.2	80.0	85.0
	ヨーバルフロアブル	5000	41.4	80.0	—
	ベネビアOD	2000	3.4	—	100
30	ブロフレアSC	2000	100	—	—
	グレーシア乳剤	2000	—	100	100
UN	プレオフロアブル	1000	96.6	—	55.0

注) 2～3齢幼虫を供試

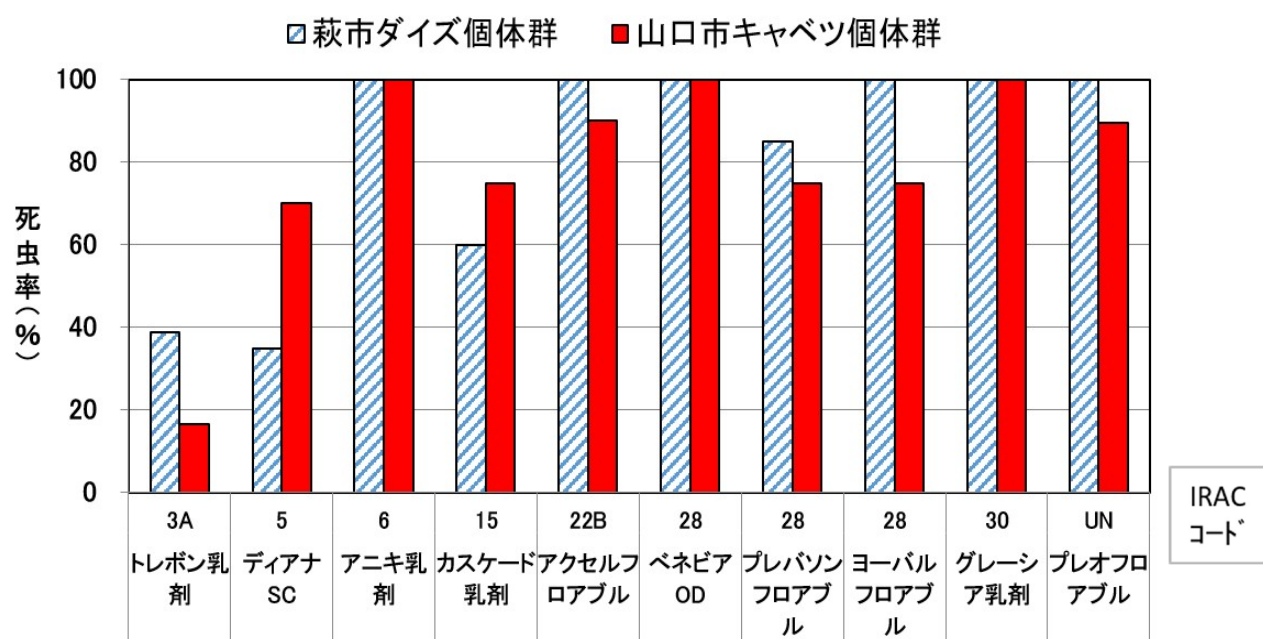


図5 ハスモンヨトウの薬剤別死虫率 (R7結果)

* 2～3齢幼虫供試